



2021年1月13日

# 事例に学ぶ

～福祉施設で感染が発生したらどう動けばよいか？～

社会福祉法人白根学園 光の丘

支援課長 坂田 道啓

相談係長 上村 祐作



# 目次

---

1. 光の丘の概要
2. 感染の経緯
3. 横浜市との打ち合わせ
4. 感染後の対応
5. 日中活動再開に向けた取り組み
6. 収束後の対応



# 1. 光の丘の概要

---



# 光の丘の概要

名称：光の丘

所在地：神奈川県横浜市旭区白根7-10-6

設置主体：社会福祉法人 白根学園

開設年月：・1960年5月12日 法人創立

・1963年9月 精神薄弱者援護施設として開設



神奈川県MAP



# 事業所説明

- ・ 光の丘（施設入所） 定員40名
- ・ 光の丘（短期入所） 定員10名
- ・ 光の丘（生活介護） 定員80名 従たる事業所：工房蛍
- ・ ホーム丘（共同生活援助） 定員52名

旭区 4か所4ホーム

都筑区 2か所4ホーム

港北区 1か所2ホーム

常勤職員： 73名

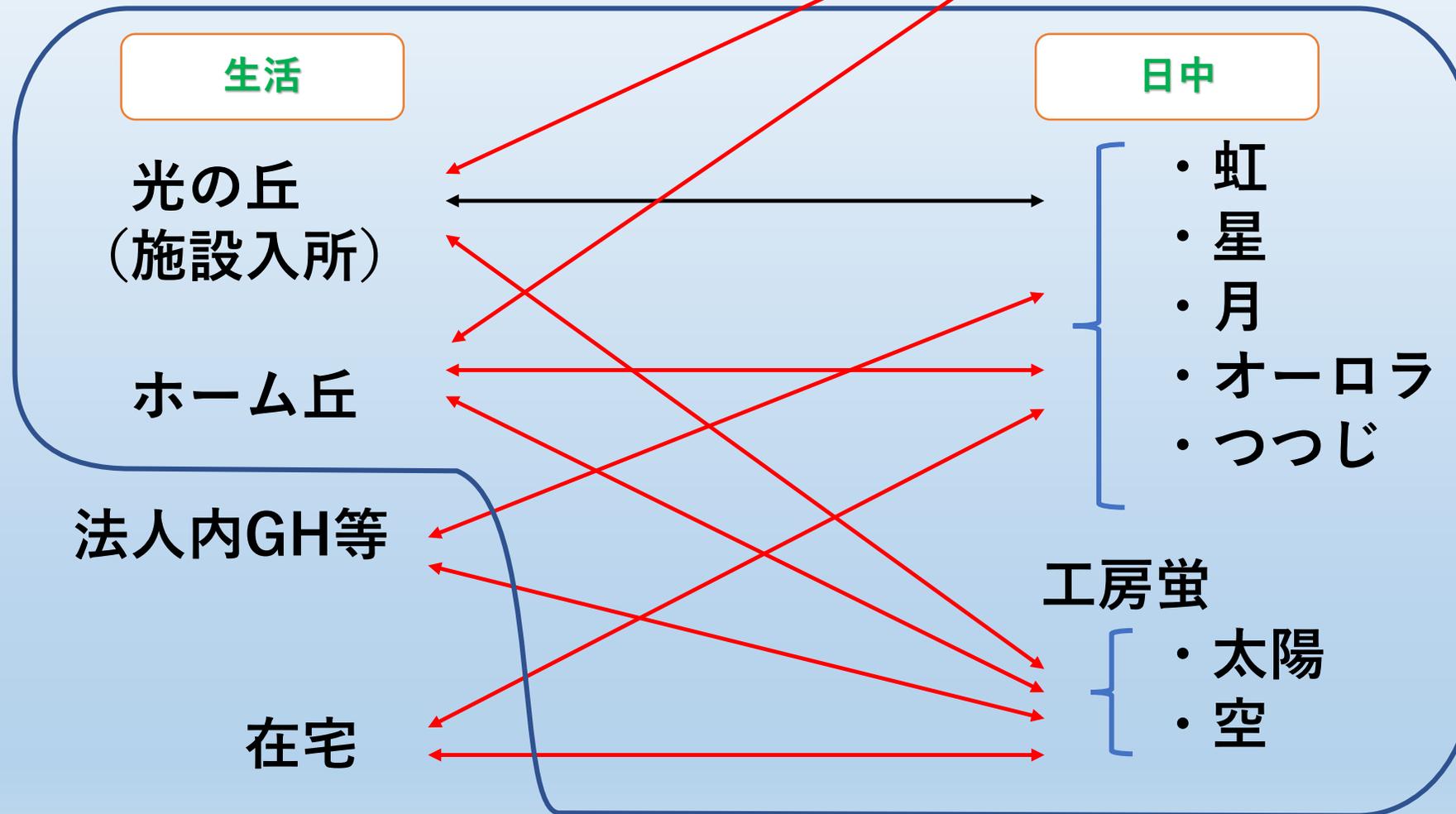
非常勤： 33名



# 相関図



## 法人内外生活介護



※赤い矢印は車両送迎



## 2. 感染の経緯

---



# 時系列

- 8月28日（金）工房蛍利用者2名発熱確認 早退
- 8月29日（土）～30日（日）に職員1名、利用者2名の発熱確認。
- 9月1日（火）職員1名陽性判明  
「光の丘」の日中活動・短期入所の受け入れ全面中止  
旭保健所の指示のもと濃厚接触者の特定（健康観察・出勤停止措置）
- 9月2日160名の集団PCR検査  
横浜市障害施設サービス課との打ち合わせ

# 時系列

- 9月4日（金）PCR検査結果職員13名、利用者27名の計40名の陽性確認  
横浜市健康福祉局障害保健福祉部障害施設サービス課・健康安全部健康安全課及び旭区・都筑区保健所との合同打ち合わせ
- 9月6日（日）横浜市健康福祉局障害保健福祉部障害施設サービス課と打ち合わせ
- 9月8日（火）横浜市白根学園支援対策本部設置  
（横浜市障害施設サービス課職員常駐開始）



# 3. 横浜市との打ち合わせ

---

# 横浜市との打ち合わせ

9月4日 白根学園感染症対策本部と合同打ち合わせを行い対策スキームを確認

## 参加者

- ・ 白根学園感染症対策本部
- ・ 横浜市健康福祉局障害福祉保健部
- ・ 障害サービス課
- ・ 施設運営支援係及び地域施設支援係
- ・ 健康安全部健康安全課
- ・ 旭保健所      ・ 都筑保健所



# 内容①

## • 利用者に関して

- 1.陽性の利用者を病院、療養施設に入所させることは障害の状況を考慮すると困難と判断
- 2.学園内に陽性者の新たな隔離施設の設定・確保することが困難
- 3.陽性利用者の生活場所が様々な生活場所に散在し、新たな感染拡大を招く恐れもあるため利用者の生活場所の移動は望ましくない



入所・グループホームの入居者に関して（陽性者含む）  
現状の生活場所で経過・健康観察



## 内容②

- 職員に関して

陽性者との濃厚接触者を特定することは職員数の減少により利用者の支援に重大な障害をきたす（十分な職員応援体制が確保できない）



十分な感染対策（防護服、フェイスシールド、手袋など）を行うことを前提とし、濃厚接触の特定は行わない



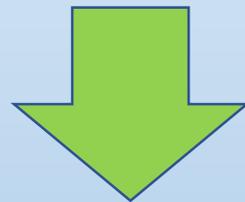
# 内容③

## ・白根学園の新たなスキーム

- 1 白根学園全職員における週1回のPCR検査（唾液）実施
- 2 白根学園全体利用者の毎日の健康観察（検温・SpO2の測定）の実施と横浜市への報告  
(横浜市の保健師は利用者の健康観察を確認し、必要があれば健康状態の聞き取り及び入院の対応を講じることとする)

### ③ - 2 記載の「毎日の健康観察」

「白根学園全利用者に対して、今後は特段な事情がない限りPCR検査を実施しないこととし、その代替として日々の利用者の体温及びSPO2（動脈血酸素飽和度）を毎朝、横浜市に報告することとする。」に基づき、毎朝（土・日含む）10：30までに指定の書式に則り提出。



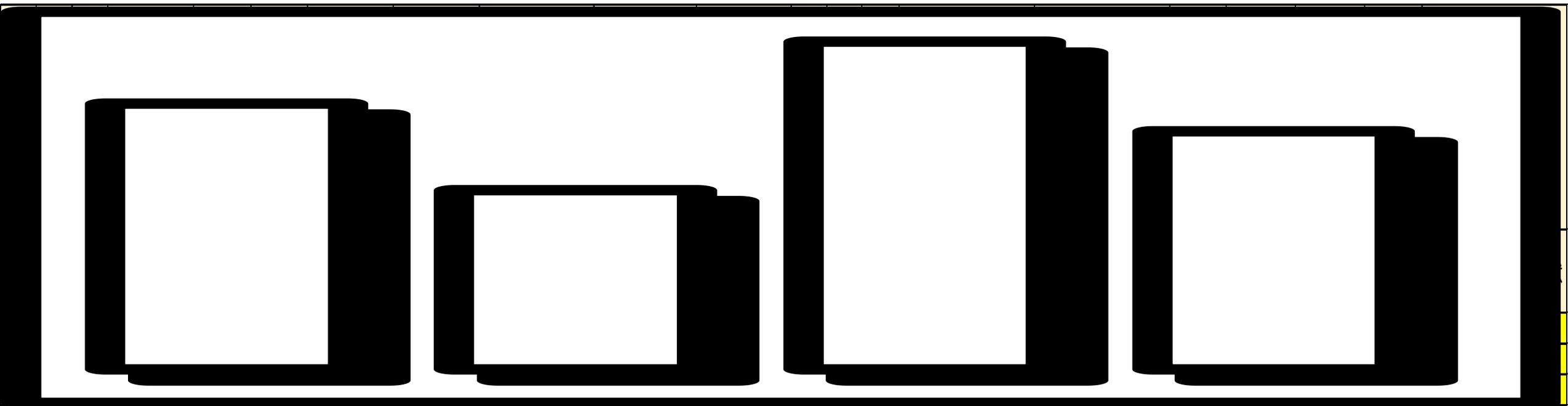
健康観察表において、体温 $37.5^{\circ}\text{C}$ 以上、SPO2が94%以下で、横浜市の保健師が対応必要と判断した利用者に関して、直接事業所の担当者に連絡し状態を確認することとする。



# 健康観察リスト



白根学園





# 緊急入院時のための 白根学園全利用者 を対象とした情報 提供書の作成

基礎情報に加え、救急隊  
や医療関係者の視点ADL  
やコミュニケーションに  
ついて記載

## 情報提供書（施設・事業所 → 医療機関）

記入日 年 月 日

ふりがな 氏名			
生年月日	年 月 日( 歳)	性別	男・女
住所 (グループホーム、 入所施設名)	〒	電話番号	( )
家族等連絡先	氏名 (続柄)		電話番号
利用者の健康状態	(既往歴等)		
処方薬の内容	医療機関名 ( )		
服薬	自立・見守り・一部介助・全介助		
食事摂取	自立・一部介助・全介助	食事形態	普通食・粥食・きざみ食・ミキサー食 (備考)
排せつ	自立・一部介助・おむつ・Pトイレ(自立・介助) (備考)		
保清	自立・一部介助・全介助	入浴	一般浴・機械浴・シャワー・清拭 (備考)
移動	歩行(自立・介助)・杖歩行・押し車・車いす(自立・介助)		
睡眠	良眠・浅眠・不眠・昼夜逆転 使用している薬剤 ( )		
行動	自傷・他害・多動・その他 ( )		
コミュニケーション能力	【視力】 有 ( )・無 【聴力】 有 ( )・無 【意思の伝達】 普通・かろうじてできる・基本的要求のみできる・できない 【自分の体調の伝達 (〇〇が痛いなど)】 普通・かろうじてできる・できない 【話の理解】 普通・かろうじてできる・まれにできる・できない		
記入者	職名:	連絡先:	



## 4. 感染後の対応

---



# 職員配置

- ・他への感染拡大防止のため、勤務場所（ユニット・ホーム）を可能な限り限定
- ・嘱託職員は、家族への感染拡大防止のため出勤自粛を要請
- ・GHについては24時間勤務の休日支援体制（直行・直帰）  
市中感染防止及び職員の負担軽減のため自家用車通勤等を認める
- ・GHの日用品・必要物品等は光の丘より随時玄関先に届ける体制をとる
- ・週1回のPCR検査（唾液）実施により陰性及び健康観察終了、療養終了の職員が勤務にあたる



# 健康観察中の支援

- 1、アルコール消毒等の衛生管理、環境消毒、定期的な換気
- 2、1日3回の検温及びSPO2の測定
- 3、日中活動先より指示された在宅活動及び余暇の支援
- 4、食事・間食・嗜好品提供支援

※食事は全て弁当体制（一部昼・夕食を届ける）

- 5、清掃、入浴等の生活支援
- 6、発熱者発生時における本部（学園）への連絡と緊急対応
- 7、GHは近隣住民への配慮からグループホームのごみ及び使用済み衛生用品に関しては光の丘に集積（一部家庭ごみは袋を二重にしたうえで地域集積場へ）



# 利用者様の生活

- ・原則として居室での生活（食事含む）
- ・入浴は1：1対応のシャワー浴で、陽性者は最後に対応。  
都度浴室のアルコール消毒
- ・トイレは都度消毒

# ゾーニング



白根学園

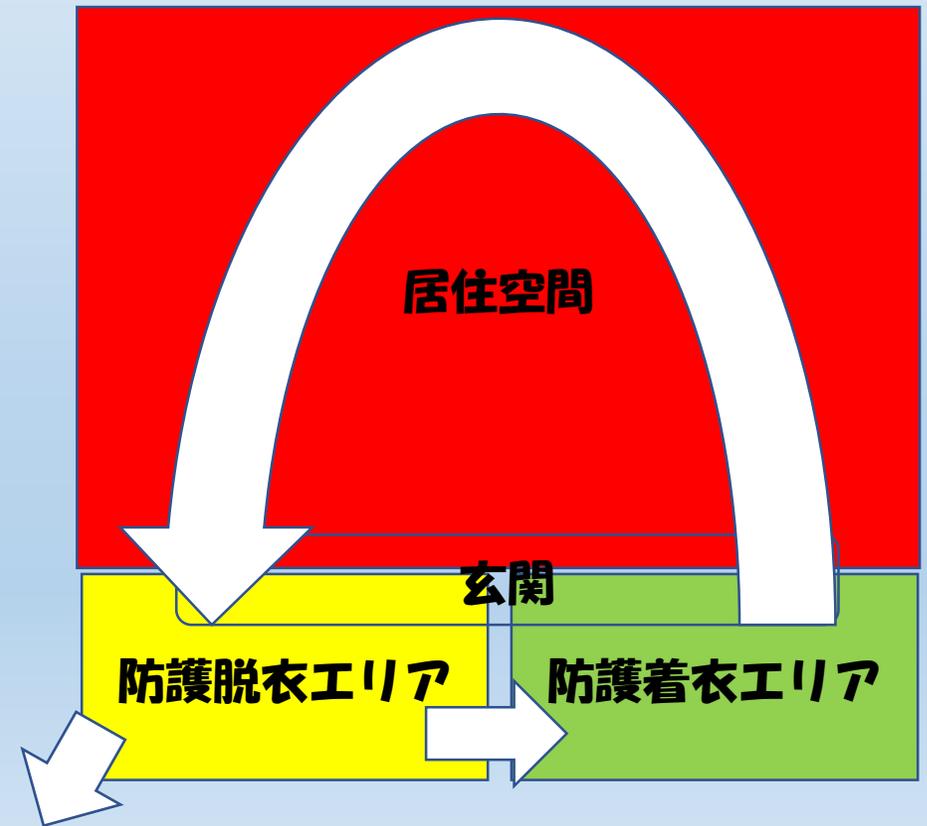
## 領域の区分け

9月7日（月）横浜市健康福祉局健康安全課指導の下、利用者様が生活している区域を

- ①非感染領域（グリーンゾーン）
- ②感染領域（レッドゾーン）
- ③準感染領域（イエローゾーン）

の3つに明確な区分けを行い、感染拡大を防ぐ。

感染領域で支援を行った職員とそれ以外の人  
の動き、流れが交差しないよう床面などに色分け  
したテープの貼り付けや矢印表示を行いゾー  
ニングの徹底を図る。



## ① 非感染領域（グリーンゾーン）

この  
順番  
で  
着  
衣

1. アルコール消毒液（アルコール濃度70%以上の消毒液を使用）
2. 感染防止ガウン（つなぎタイプの防護服は脱ぐときに感染のリスクが上がるので、ガウンで対応）
3. マスク（N95マスクではなく通常マスクで十分に効果ありと指示を受ける）
4. フェイスガード
5. ディスポーザブル手袋
6. シューカバー（本アイテムは脱ぐときにリスクを高めるが、支援者からの希望が高く、任意で装着を判断してもらっている）

※上記はすべて使い回しせず一回限りの使い捨て

# ゾーニング



白根学園

## ② 感染領域 (レッドゾーン)

- ・アルコールボトルを常備し、1支援につき1プッシュ※1を徹底！
- ・3時間経過後、準感染領域に行き汚染された防護関係を脱衣。

## ③ 準感染領域 (イエローゾーン)

シューカバーをしている場合は最初に脱ぐ

1. ディスポーザブル手袋
2. 感染防止ガウン
3. フェイスガード
4. マスク

この順番で脱衣

1push

1push

1push

1push

1push

アルコール  
濃度78%の  
ものを使用



※1



※2

★ すべての行程の前と後に手指消毒を実施!!

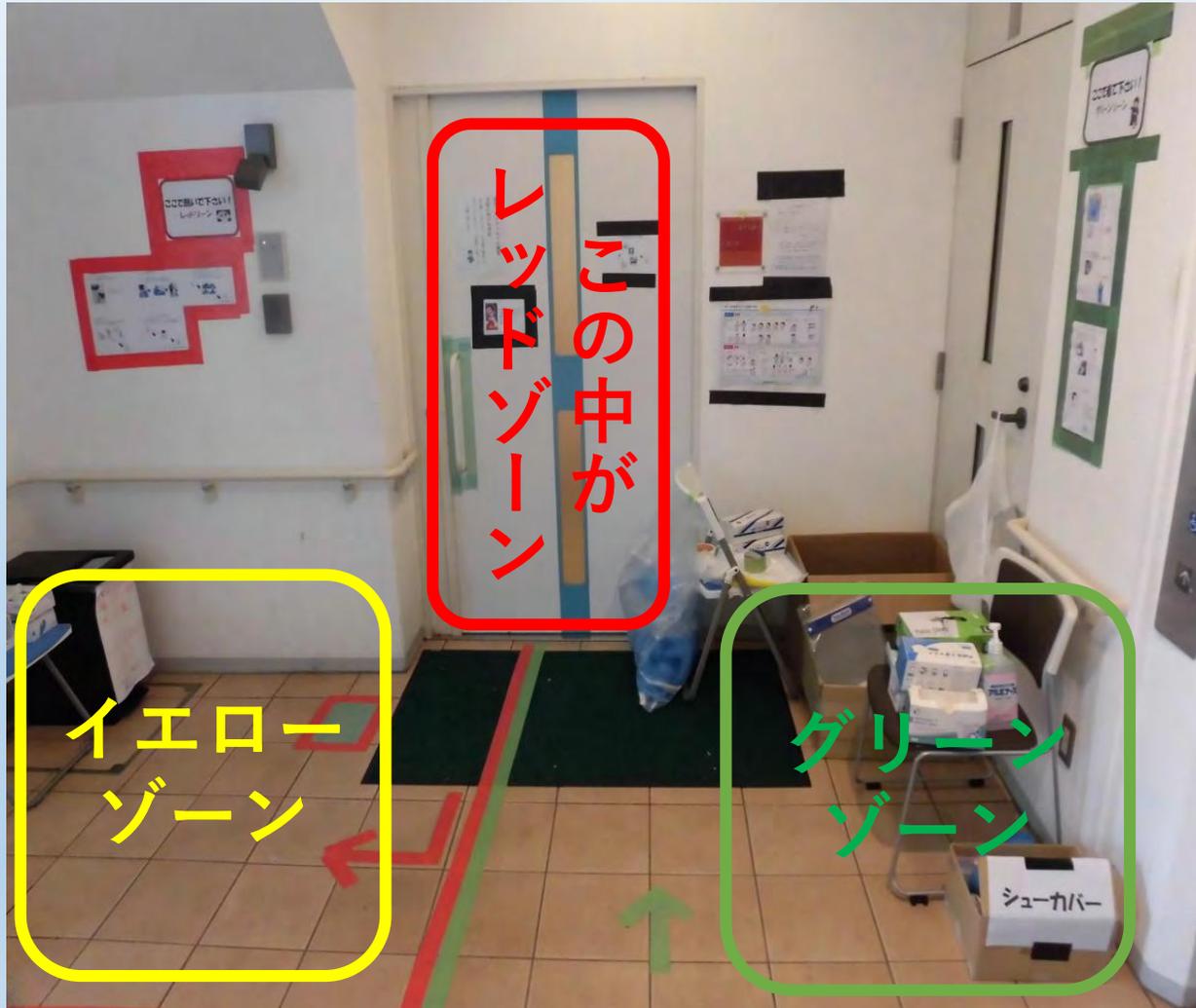
★ 感染領域から出た際の靴などの履物消毒液の設置※2

# ゾーニング



白根学園

## 領域の区分け画像



※イエローゾーン（防護脱衣エリア）は職員周知徹底で理解しやすくする為、赤テープでレッドゾーンと表示している。

## 職員防護の様子



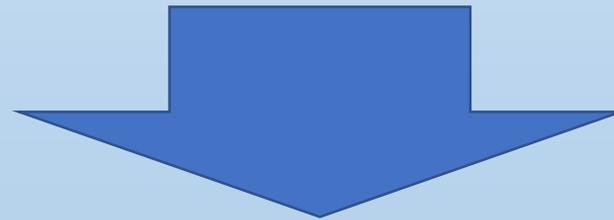


# グループホームのゾーニング

グループホームは施設と異なり玄関先に準感染領域、非感染領域の設定を行うことが難しく、一ヶ所を除いて玄関内に設定！

(理由)

- ・ 建物の構造上玄関が狭く、勝手口もなかった為、玄関先や外での設定が困難。
- ・ 目に見える所で防護関係の着脱をしない事で、近隣住民に与える不安を軽減する配慮。



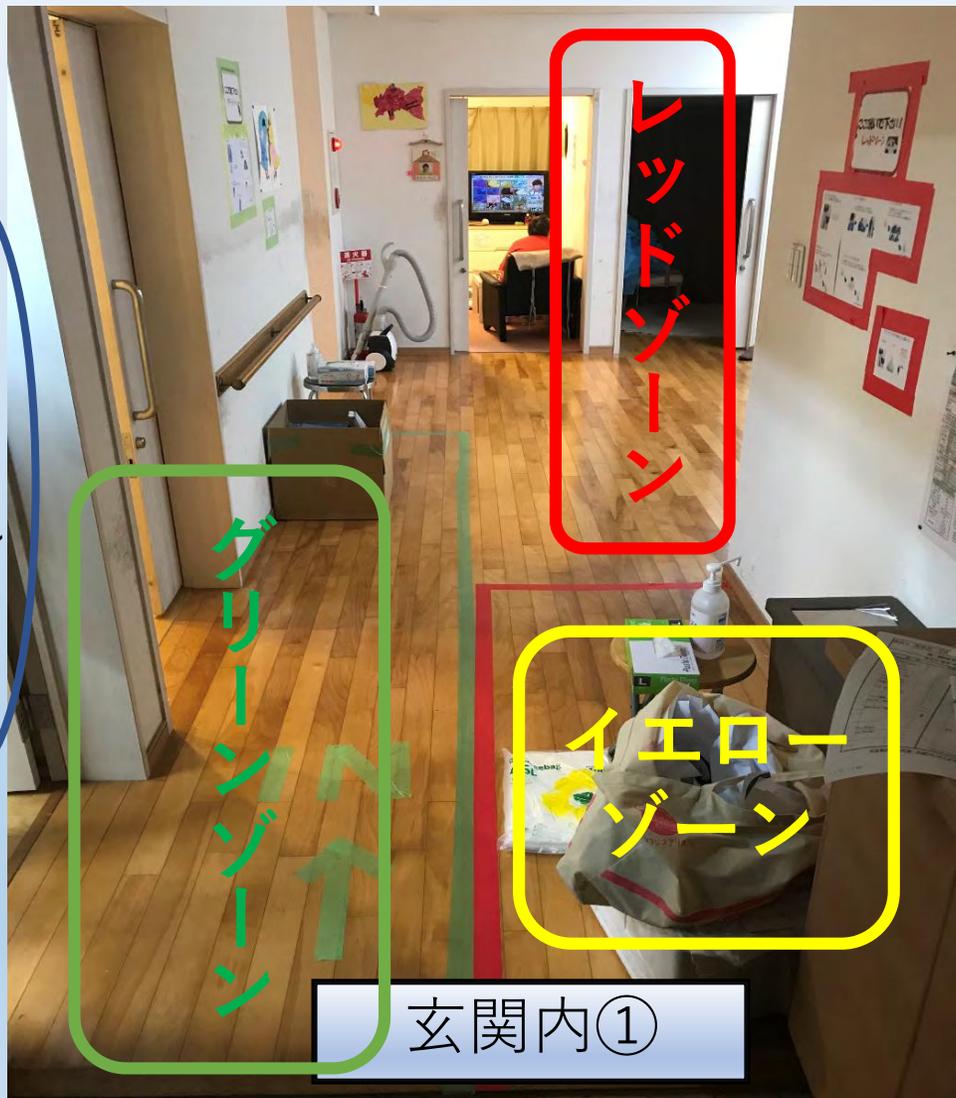
スタッフルーム内とキッチンを非感染領域、利用者の生活空間を感染領域として設定。

# グループホームのゾーニング画像①

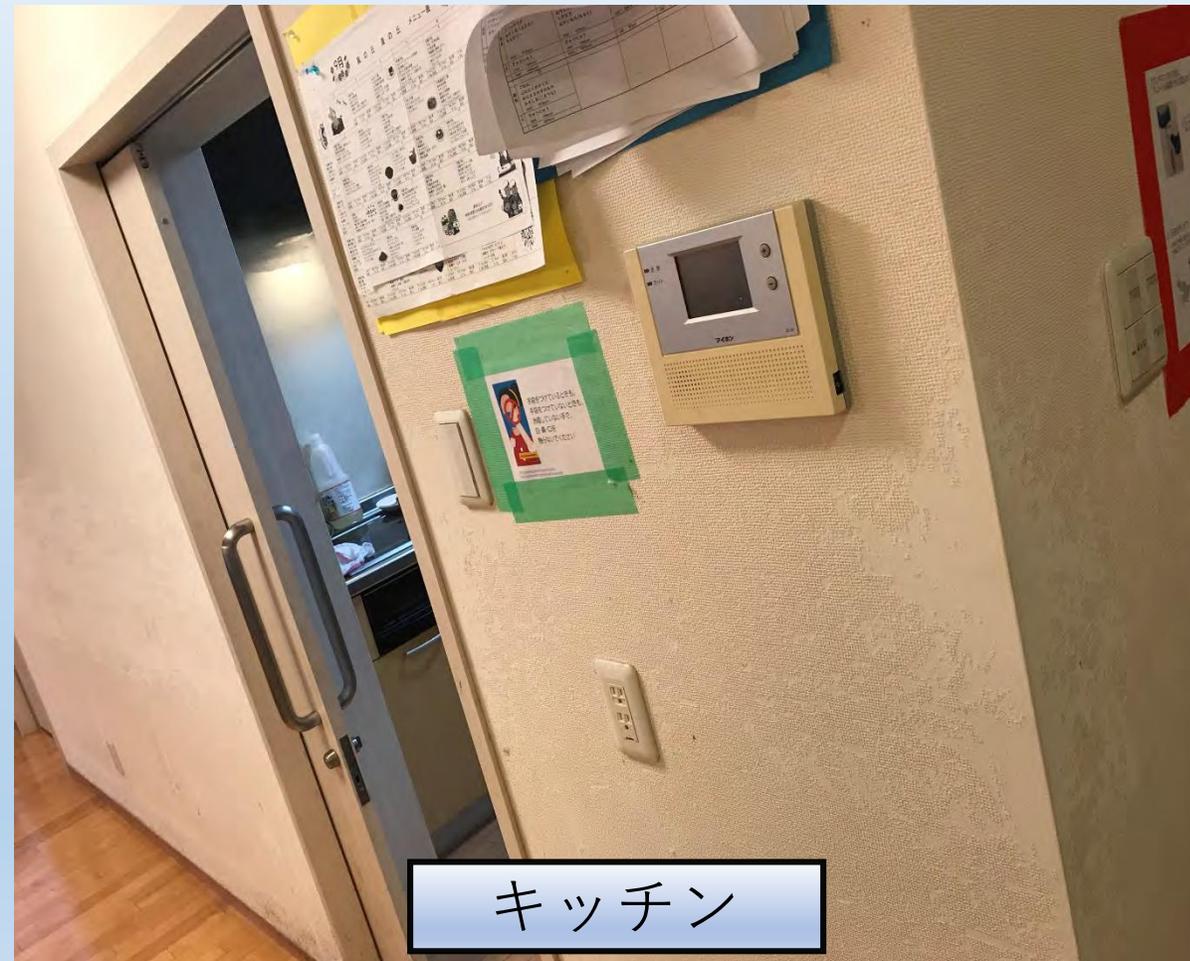


白根学園

スタッフルーム



玄関内①

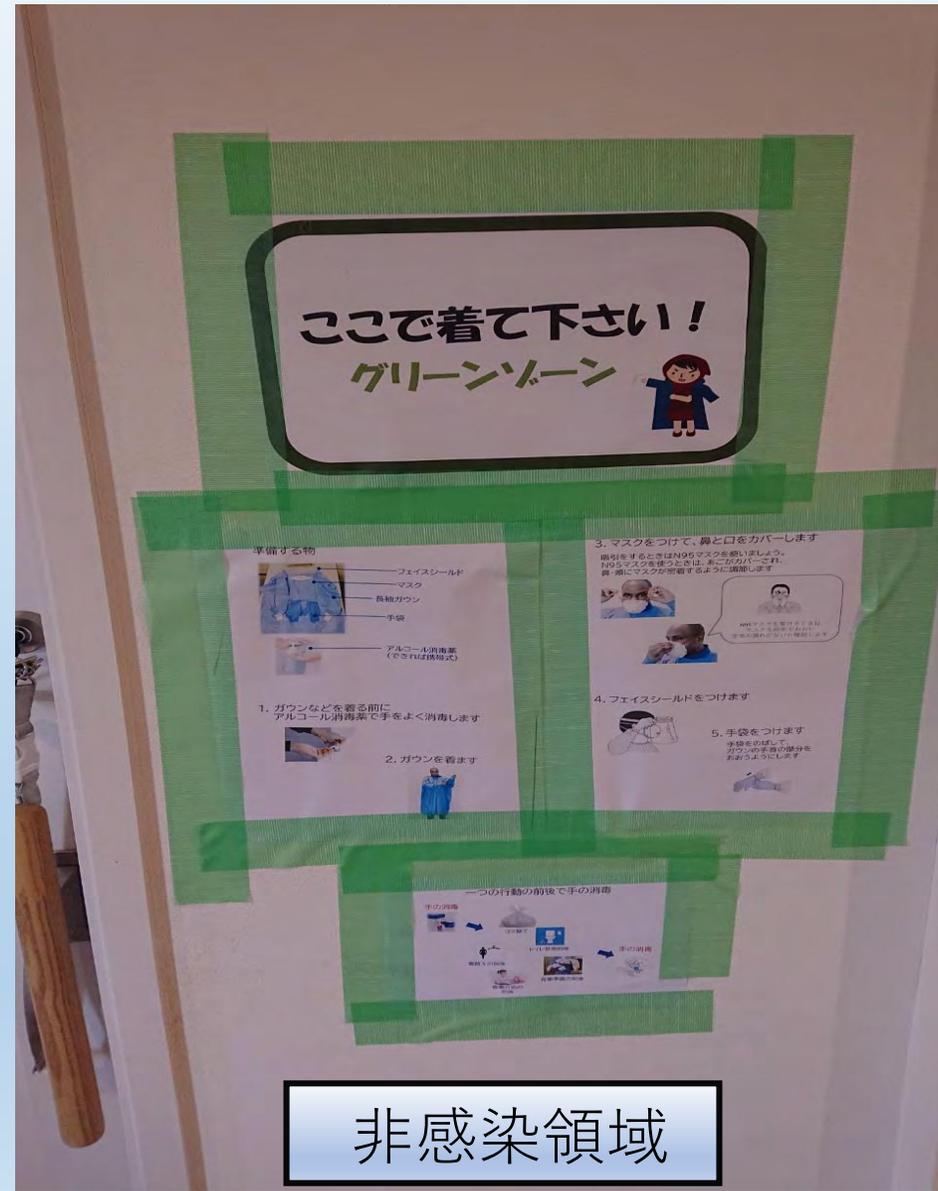
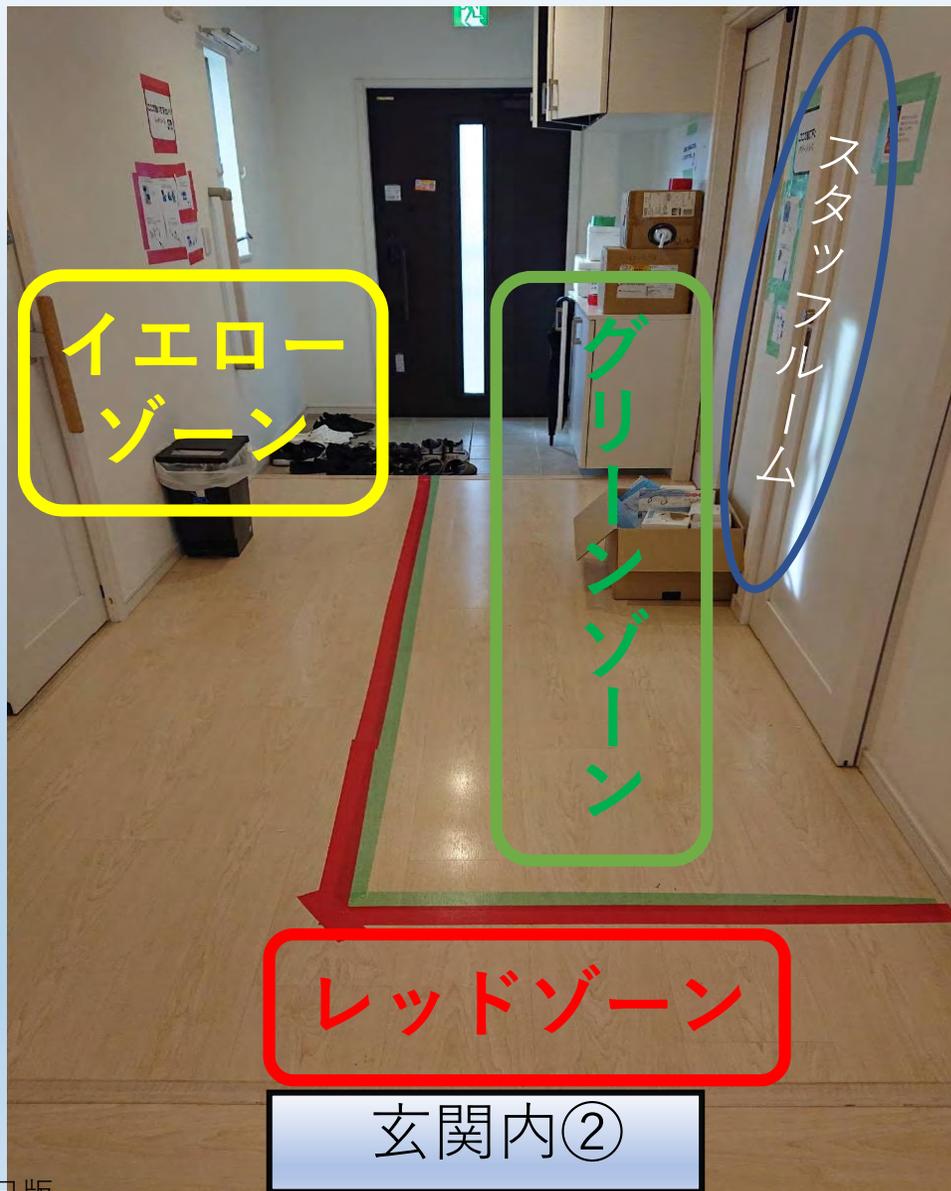


キッチン

# グループホームのゾーニング②



白根学園



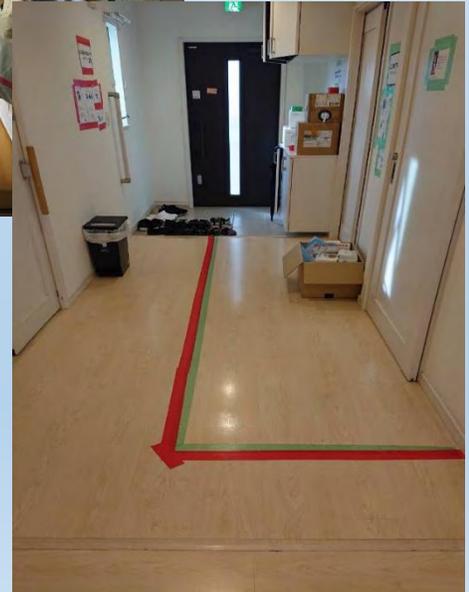


# 入所とグループホームのゾーニングの違い

入所ゾーニング



ホームゾーニング





# PCR検査

- ・通所利用者・短期入所利用者等対象PCR検査  
9/11に実施

- ・全職員対象PCR検査

徐々に陽性者数が減少し、全員陰性になり収束に至るまで実施。

第1回9/7 第2回9/14 第3回9/23 第4回9/29

※第4回はメインでクラスターの起こった事業所+1事業所のみ

(職員への連絡は一斉送信のできるアプリを活用)



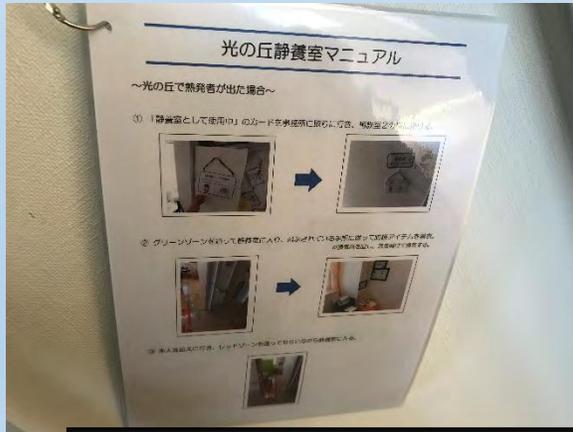
# 5. 日中活動再開に向けた取り組み

---

# 日中活動再開に向けた取り組み



マニュアル周知



静養室完備

ゾーニング  
済



工房蛸消毒

# 日中活動再開に向けた取り組み



白根学園

飛沫対策パネル・カーテン完備

光の丘



工房蛍



# 日中活動再開に向けた取り組み



白根学園

## 車両の感染対策



レッドゾーン  
用カーテン



# 日中活動再開に向けた取り組み



白根学園

## アルコールボトルの常備



日中活動再開後も全職員出勤後所定の場所でアルコールボトルを取り、1支援につき1プッシュを徹底するように周知！！

## 管理職にお願いしたい今すぐできる準備



1、熱発者が出た時に対応できるゾーニング環境…居住空間、日中活動ともに！

(アルコール消毒液、ディスポーザブル手袋、感染防止ガウン、フェイスガード、マスク等)



2、静養室の完備…ゾーニングされた隔離できる空間



3、飛沫感染対策…パネルやカーテン、パーテーション



4、アルコールボトルの常備…支援者全員が意識的に使用



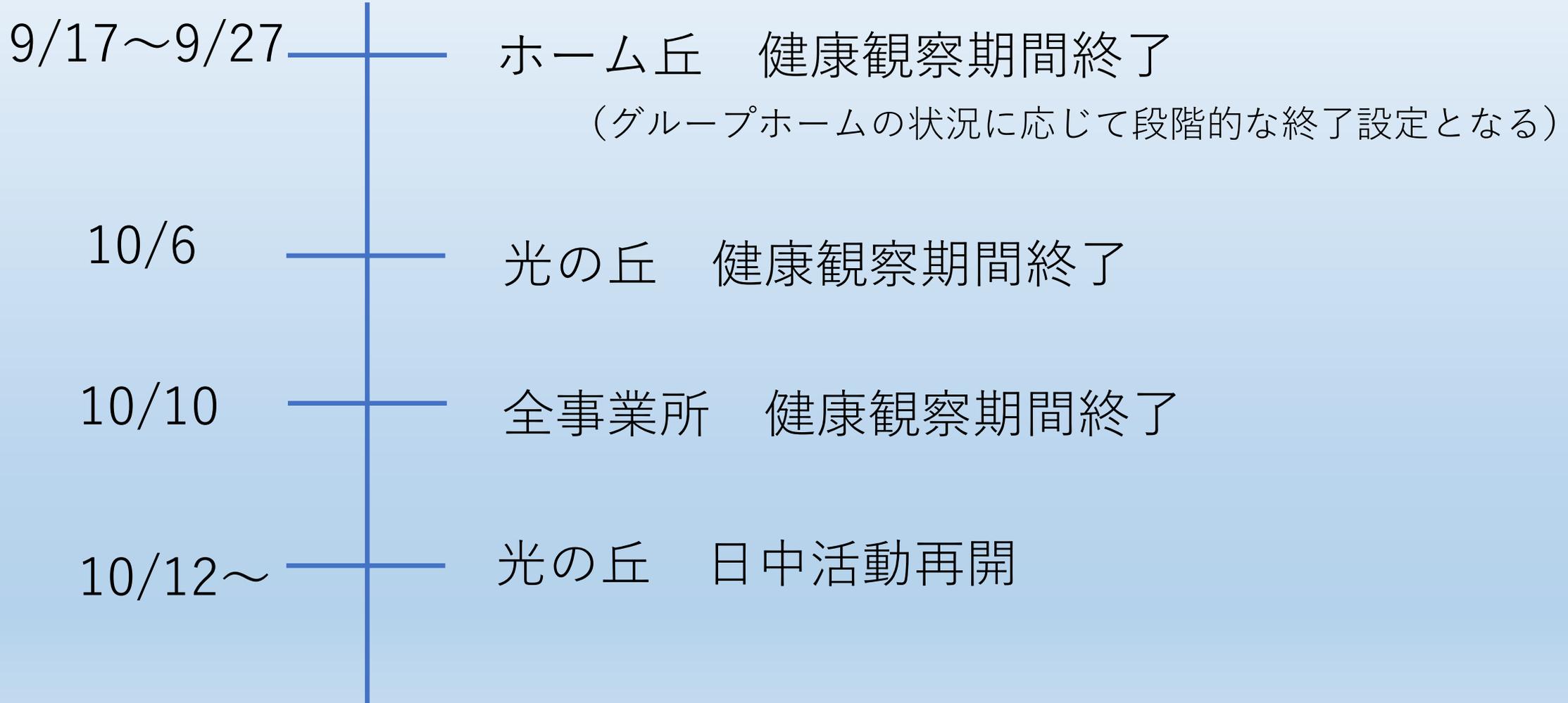
5、リモート環境…zoom等オンラインで情報共有 等



## 6. 収束後の対応

---

# 収束までの時系列



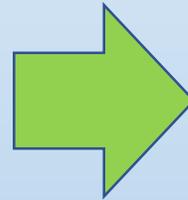
# 利用者様の生活



白根学園

## 健康観察時

- ・原則として居室での生活  
(食事含む)
- ・入浴は1 : 1 対応のシャワー浴  
で対応。陽性者は最後に対応
- ・トイレは都度消毒



## 現在

- ・リビングでの食事を再開。(※  
本人、ご家族の意向や居室での食  
事が習慣化した方は継続。)
- ・入浴は1 : 1 対応、浴槽を使用
- ・発熱者が使用した際は都度アル  
コール消毒



# 現在の日中活動等

- ・ 生活場所のゾーニングの解除
- ・ 送迎形態の変更（生活ごとに送迎を運行。乗車人数を制限）
- ・ 生活介護の利用者配置の変更・追加
  - 作業場を入所、ホーム、居宅等、生活毎に変更
  - 食堂を作業場として追加し人数を分散することで密集を避ける
- ・ 食事は仕切りが設置された作業場で弁当形式で提供
- ・ 1日3回の検温実施
- ・ 職員は個人用消毒液（アルコール）を引き続き携帯



# 相関図



白根学園

法人内外生活介護

生活

日中

光の丘  
(施設入所)

・虹    ・月    ・オーロラ (2階)

グループホーム

・つつじ (3階)

・富士 (4階) 星 (2階)

法人内GH

工房蛭

在宅

・太陽  
・空

※赤い矢印は車両送迎



# クラスターを経験して

- 基本の予防対策

「感染経路別の予防策（飛沫・接触）」

「3密を避ける環境整備」

「関係者の健康管理」

を確実に実施すると共に、事前出来る備えも実施しておく。

## 【事前の備え】

① 情報の整理

② 備品の在庫確認

③ ゾーニング、感染防護具着脱のシュミレーション

④ 情報提供書の作成

etc.



# ① 情報の整理

- ・どこに連絡するか（行政・保護者/後見人・関係事業所・業者等）
- ・どこに連絡したか
- ・誰から連絡を受けたか

※情報集約はホワイトボード等を使用し、見える化  
※集約した情報をスタッフにどのように周知するか  
（災害時の安否確認用として導入していた一斉通知が  
可能なアプリやメール・LINE等も有効に活用し健康  
観察や周知に活用）





## ② 備品の在庫

今すぐ欲しいというタイミングで品薄で購入ができない、購入に人が割けない

- ・ 個人防護具  
(ガウン・フェイスシールド・ディスポーザブル手袋・マスク等)
- ・ 消毒液 (アルコール、次亜塩素酸水等)

に加えて

- ・ ペーパータオル ・ 紙コップ ・ ビニール袋
- ・ ゾーニング用テープ 等



## ③ ゾーニング、感染防護具着脱のシュミレーション

感染を広げない為に

- ・ **速やかなゾーニング**
- ・ **正しい感染防護具の着脱**

初動でスムーズに動けるように事前シュミレーションを実施



## ④ 情報提供書の作成

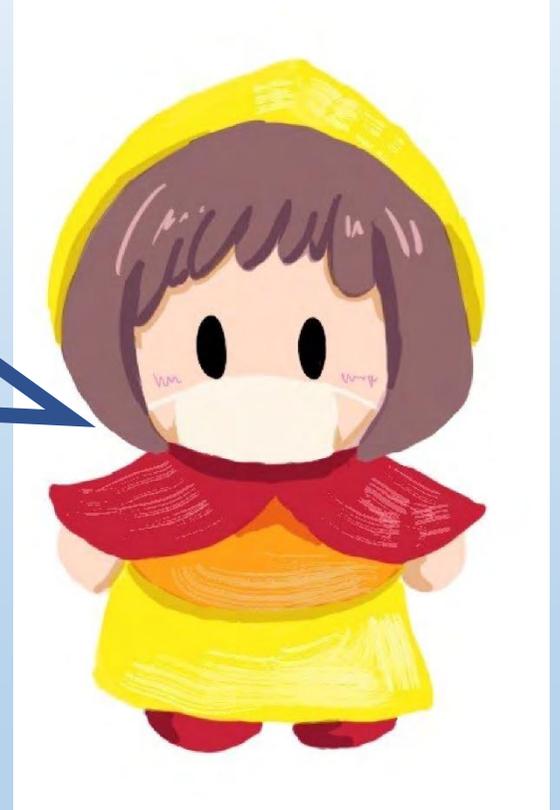
発生してから作成する事は非常に困難

指定の様式などの有無を自治体に確認し事前に作成  
(※意思疎通については医療関係者の視点で作成)

在宅利用者についても、短期入所などでの受け入れが想定されるため、入所利用者と同様に基礎疾患や服薬情報等を事前に把握しておくことが必要



**ご清聴ありがとうございました**



光の丘マスコットキャラクター  
「PICCAリ-なちゃん」マスクver